

「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター

だいだらぽじー

DAIDARAPOSIE



優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト 及びバリューチェーンマップの概要について

※本資料では、各用語を省略記載

NP：ネイチャーポジティブ

NPE：ネイチャーポジティブ経済

VC：バリューチェーン

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びバリューチェーンマップについて



- 自然関連情報開示を着手予定の企業の皆様の分析の省力化を図るべく、**生物多様性への依存度・影響度が高く、産業規模の大きい優先対象分野ごとに自然関連リスク・機会ロングリスト（以下、「ロングリスト」）及び同リストの内容をVCに沿ってまとめたVCマップ（以下、「VCマップ」）を作成。**
- 本コンテンツは開示に向けた整理・検討だけではなく、**①組織内（対経営層、現場・事業部等）のコミュニケーション、②VC上の取引先とのコミュニケーション、③投資家とのコミュニケーションにも活用可能。**

L 発見

E 診断

【凡例】 : これからTNFD分析を実施される企業

: 既にセクター/自社に関連するリスク/機会の概観を把握されている企業

A 評価

P 準備

資料

特徴

活用
シーン

優先対象分野別バリューチェーンマップ



- 3つの優先分野における**代表的なリスク/機会（例）**を記載
- VC上の位置づけに沿ってリスク・機会を記載した「**概要版**」、リスク・機会の分類に沿って可能な限り網羅的にリスク・機会を記載した「**詳細版**」の2パターンで整理

- セクター/自社に関連するリスク/機会についての**全体像・概観の把握**
- 経営層や現場・事業部等の**社内ステークホルダー及びVC上の取引先や投資家等の社外ステークホルダーとの対話にも活用可能**

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト

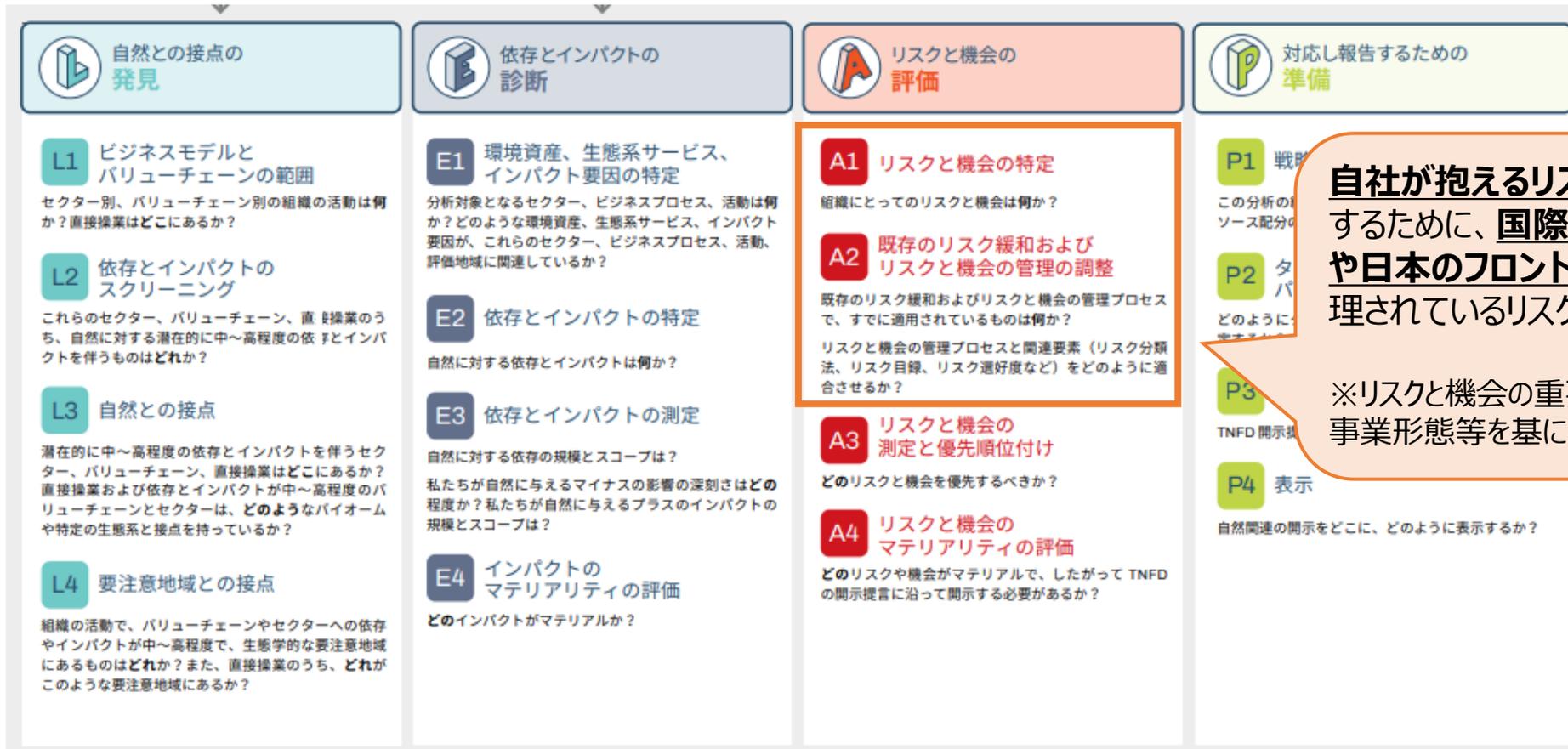


- TNFDやWBCSDの各種ガイダンスに記載されている**リスク/機会、対応策を抜粋して一覧化**
- **該当するセクター等でソート検索**でき、自社や投融資先企業に関連するリスク/機会、対応策を確認可能

- 自社にとってのリスク/機会や関連する対応策を特定する際に、**分析の省力化（=各社特有の地域性分析や対応策検討へのリソース配分）**
- ロングリストを**Excel版でダウンロード**し、独自のフィルタリングにより、自社に関連するリスク/機会等だけを取りまとめる等の応用的な活用も可能

LEAPアプローチとロングリスト及びVCマップの活用シーン①

- TNFDは、**自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ**としてLEAPアプローチを開発。LEAPアプローチでは、スコopingを経て、Locate（発見する）、Evaluate（診断する）、Assess（評価する）、Prepare（準備する）のステップを踏み、TNFD情報開示に向けた準備を実施。
- **上記の内、特にAssess（評価する）フェーズの「リスク・機会の特定」の省力化に繋げ、より各社特有の分析となる「地域性分析や対応策の検討」への注力を促す**ことを目的にロングリスト及びVCマップを作成。



自社が抱えるリスク・機会を特定・具体化するために、国際イニシアティブのガイダンスや日本のフロントランナー企業開示にて整理されているリスク・機会を参照

※リスクと機会の重要度・時間軸・重要地域等は、事業形態等を基に各社で判断する必要がある

LEAPアプローチとロングリスト及びVCマップの活用シーン②

- Assessフェーズの対応に向けては、**各社ごとに自然関連リスク・機会の洗い出し（関連するガイダンスの調査、リスク機会の抽出、日本語への翻訳、リスク機会の統廃合・概観把握など）を実施する必要**があり、膨大な情報整理が求められる。
- ロングリストの活用によりこれらの**初期プロセスを一部省略が可能**であり、VCマップの活用により**優先対象分野別又はVC別の主要なリスク・機会の概観を掴むことができる他**、社内外のステークホルダーとの**コミュニケーションツールとしても活用可能**。（詳細は後頁をご参照）
- なお、ロングリスト及びVCマップで洗い出したリスク・機会及び対応策は、LEAPアプローチの「Locate」（影響を受けやすい地域の特定等）及び「Evaluate」（インパクト要因及び外部要因から生じる依存経路とインパクト経路等の特定）の分析結果を踏まえ、**自社の事業内容との関連性等の観点から内容の精査が必要であることに留意**。

Assessフェーズ

一般的なリスク・機会の”洗い出し”プロセス



- TNFD、WBCSD等が発行するガイダンスのうち、自社に関連するガイダンスを精査

- 調査対象ガイダンスからリスク・機会を全て抽出

- TNFD、WBCSDのガイダンスは英語であるため、社内での円滑な検討・議論のために日本語に翻訳

- リスク・機会の統廃合、概観把握

- ガイダンス間で書きぶりが多少異なるものの内容が類似するリスク・機会を統廃合して整理
- セクター/自社に関連するリスク・機会の全体像・概観を把握

個別のリスク・機会の”絞り込み”プロセス



- セクター/自社に関連するリスク・機会の深掘り（事業環境・内容を踏まえた詳細化等）

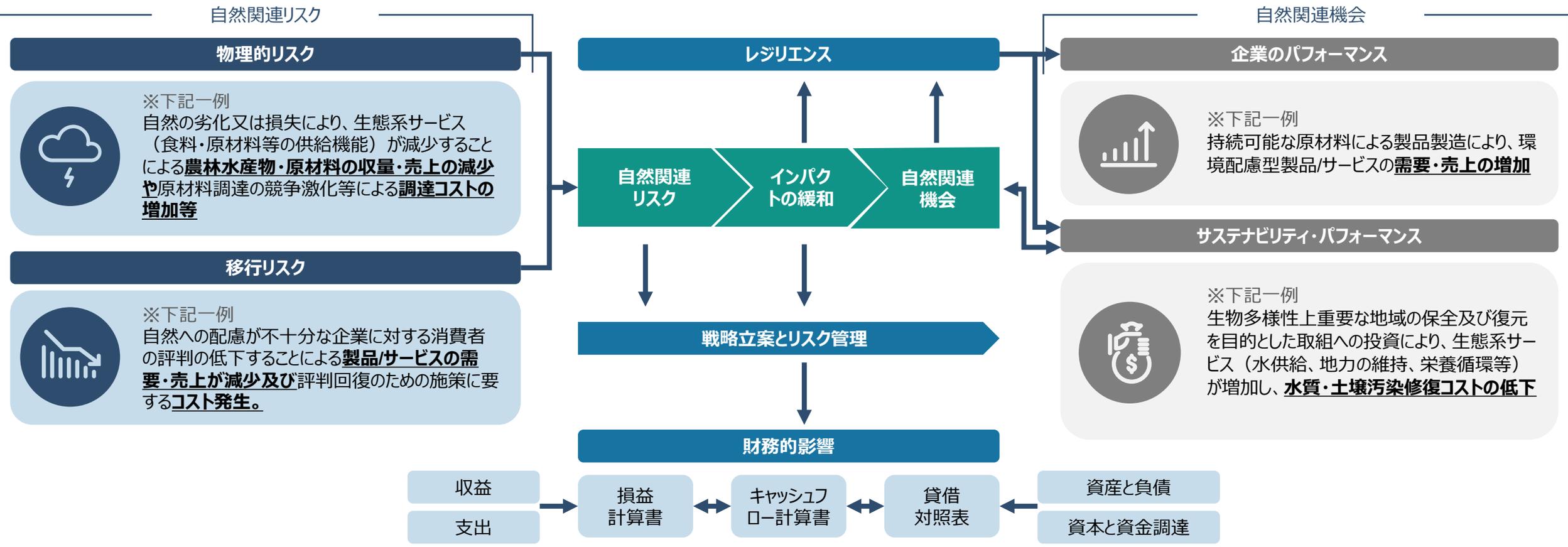
- リスク・機会に関する指標に基づきリスク・機会を測定

- 自社にとってマテリアルでありTNFD提言に沿って開示すべきリスク・機会の評価・特定

**ロングリスト及びVCマップをご活用いただくことで
上記洗い出しプロセスを省略・短縮可能**

(参考) 自然関連リスク・機会と組織のビジネスパフォーマンス・財務的影響との関連性

- **自然関連のリスクと機会**は、収益の流れやコスト基盤だけでなく、潜在的に、例えば信用リスクや保険料の再格付け等による資本コストに対する変化を通じて、**組織に財務上の影響を生じさせる**。
- **LEAPアプローチに沿って自社に関連するリスク・機会を特定**し、ネガティブな影響の回避・軽減又はポジティブな影響の創出に取り組むことで、企業価値のさらなる向上につなげることができる。ロングリスト及びVCマップを、主に**Assessフェーズにおけるリスク・機会の分析プロセスの省力化**にお役立いただき、**地域性分析や対応策の検討等企業価値向上に向けた各社特有の取組に注力**いただきたい。



(参考) 各ステークホルダーとのコミュニケーションにおけるロングリスト及びVCマップの活用方法

- ロングリスト及びVCマップは、主に企業のTNFD担当部署において、自社にとって重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価の実施に向けたインプットとして活用されることを想定している。
- また、社内外の各ステークホルダーとのコミュニケーション（リスク機会の分析、対応策の検討等）にあたっても活用可能。
- さらに、金融機関・投資家等との対話においても、重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価の実施、対応策の推進状況を訴求するために活用可能。

対 経営層

- 経営/事業戦略に、自然関連リスク・機会、対応策を統合させる必要性等について訴求するために活用

対 現場・事業部

- 事業内容・環境を踏まえたリスク・機会の洗い出しや、優先度評価に向けた協議のたたき台として活用

対 VC上の企業

- VC上の企業に影響が波及するリスク・機会を確認し、その対応策等について対話するために活用

対 金融機関・投資家

- 投融資の獲得に向けて、重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価を実施し、対応策を推進していることを訴求するために活用

